

古典



B5判・144ページ

古文 20 教材
漢文 13 教材



三省堂

■(一)案内

- 教科書の特色……………1
- 教科書の目次……………1
- 教科書タイジェスト……………4
- 指導書・教材……………22
- デジタル教科書……………24

*この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

古A 306

三省堂版 国語教科書

★印は平成29年度新刊, ☆印は平成30年度新刊です。

<p>★ 国語総合</p> <p>★ 国語総合 A5判/280ページ 国総 336</p>	<p>★ 国語総合</p> <p>★ 国語総合 A5判/192ページ 国総 337</p>	<p>★ 精選国語総合</p> <p>★ 精選国語総合 A5判/400ページ 国総 338</p>	<p>★ 明解国語総合</p> <p>★ 明解国語総合 A5判/360ページ 国総 339</p>
<p>☆ 現代文B</p> <p>☆ 現代文B A5判/440ページ 現B 323</p>		<p>☆ 精選現代文B</p> <p>☆ 精選現代文B A5判/408ページ 現B 324</p>	<p>☆ 明解現代文B</p> <p>☆ 明解現代文B A5判/372ページ 現B 325</p>
<p>☆ 古典B</p> <p>☆ 古典B A5判/260ページ 古B 333</p>	<p>☆ 古典B</p> <p>☆ 古典B A5判/184ページ 古B 334</p>	<p>☆ 精選古典B</p> <p>☆ 精選古典B A5判/372ページ 古B 335</p>	

<p>現代文A</p> <p>現代文A B5判/144ページ 現A 303</p>	<p>古典A</p> <p>古典A B5判/144ページ 古A 306</p>
---	---

古典A編集委員

中 刈 正 堯 兵庫教育大学名誉教授
三 浦 和 尚 愛媛大学
伊 坂 淳 一 千葉大学
太 田 亨 愛媛大学
桑 原 博 史 筑波大学名誉教授
斎 藤 貞 博 元東京都立深川高等学校

★三省堂教科書・教材サイト

<http://tb.sanseido.co.jp>

三省堂国語教科書

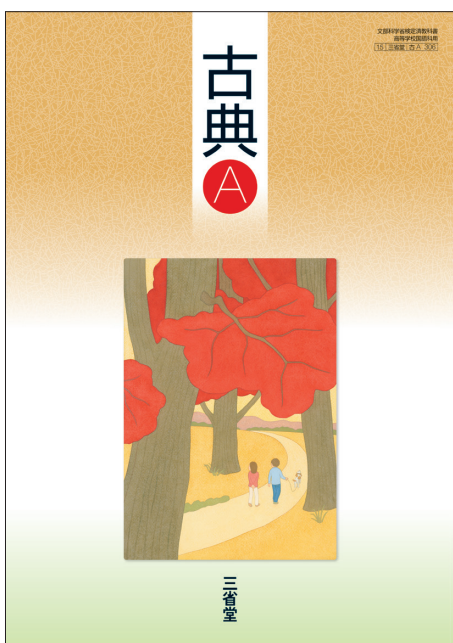
検索



三省堂

☎101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411(編集)・9556(営業)
 ●大阪支社 ☎530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 ☎06(6341)2177
 ●名古屋支社 ☎460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F ☎052(953)9211
 ●九州支社 ☎810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 ☎092(531)1531・1532
 ●札幌営業所 ☎060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル 3F ☎011(616)8722

古典 A



古 A 306 | B5 判・144 ページ

古文 20 教材
漢文 13 教材

教科書の編集方針

- 1 国語学習の基礎・基本を重視し、実生活に役立つ国語の力を獲得する。
- 2 さまざまなものの見方、考え方にふれ、幅広い人間性を育てる。
- 3 言語文化の諸側面を取り上げ、日本の伝統的な文化に親しむ態度を養う。
- 4 日常生活において適切に表現し、伝え合う力を身につける。

教科書の特徴

古文編・漢文編

古典のおもしろさを味わい、言葉への理解を深める古文編・漢文編

- 古文は、説話の代表的な作品を配列。短く簡潔で、興味深く読めるものを厳選しました。
- 漢文は、思想・漢詩・史伝を配列。現代とのつながりについて考えることができるものを厳選しました。

コラム

古典の世界に親しむコラム

- 古典の魅力や現代とのつながりについて解説したコラムを随所に設けました。

指導書・教材

指導に役立つ資料と学習を助ける教材類

- 指導書には、教材研究や評価に活用できる資料はもちろん、ワークシート・テスト問題・補充教材などを豊富に収録しました。



古文編

イントロダクション

宇治拾遺物語

蜂飼いの大臣(古事談)

恵心僧都の母(発心集)

百鬼夜行

観音になった男

古文のとびら① 説話のおもしろさ

呪いを知らせた犬

絵仏師の執心

古文のとびら② 芥川龍之介と説話

●古典に関連した近代の文章を読もう

地獄変(芥川龍之介)

夢を買う

袴垂と保昌

後の千金

古文のとびら③ 説話と中国の故事

応天門炎上

歌詠みの徳

古文のとびら④ 絵巻のいろいろ

絵師と大工

玄象の琵琶

姨母捨山

古文のとびら⑤ 古典の中の「同じ話」

武士の祭り見物

十訓抄

笛吹き成方

行成と実方

古文のとびら⑥ 説話の登場人物

義家と宗任

女盗賊

相撲の勝負

古今著聞集

イントロダクション

漢文編

塞翁が馬(淮南子)

朝三暮四(列子)

杞憂(列子)

漢文のとびら① 今に生きる故事成語

孔子の人となり

孔子と政治

大道廃れて、仁義有り

天下水より柔弱なるは莫し

渾沌

漢文のとびら② 孔子ってどんな人?

竹里館

峨眉山月歌

臨洞庭

登高

漢文のとびら③ 李白と月

三たび往きて、乃ち見る

三國志

資料編

古典参考資料

古典文法要覧

本書で学ぶ古文の基本単語

漢文の読み方

覚えておきたい故事成語

旧国名・都道府県名対照図

平安京条坊図・内裏・大内裏

春秋時代要図・戦国時代要図

中国参考地図

古典に関連した近代の文章を読もう

地獄変

芥川龍之介

これは昔、絵仏師貞隆といふありけり。家の隣より火出でて、風おしおほひの真夜は、逃げ出でて大踏へ出でけり。人の描きするもほほしけり。また、衣着ぬきも、さながら内に入りけり。それを知るも、たな遣ひ出でたるを罪して、向かひつらに立ち、見れば、たな遣ひに降りて、機、炎く盛りけりまづ、おほかた向かひつらに立ちて眺めれば、「あまほしき」といへば、人とも来らざりけり。騒がす。

「いかに」と人言ひければ、向かひに立ち、家の焼くるを見、さうろうろきつて、とどきもあひけり。「あはれ、しづるせうとくる。先づは、わらひ描きけるものか」「止むとどきに、とよひの来たたる者ども」「はいはい、かくては、いかにいかに。」

そのとに、貞隆が、いかりを動かして、今に人め合入り。

（中略）

（芥川龍之介「地獄変」）

宇治拾遺物語

蜂飼いの大臣(古事談)

恵心僧都の母(発心集)

百鬼夜行

観音になった男

呪いを知らせた犬

絵仏師の執心

夢を買う

袴垂と保昌

後の千金

応天門炎上

歌詠みの徳

絵師と大工

玄象の琵琶

姨母捨山

武士の祭り見物

…本内容解説資料で紹介するページ

古典と現代とのつながりに着目した教材配列

覚えておきたい故事成語

塞翁が馬

朝三暮四

杞憂

孔子の人となり

孔子と政治

大道廃れて、仁義有り

天下水より柔弱なるは莫し

渾沌

竹里館

峨眉山月歌

臨洞庭

登高

三たび往きて、乃ち見る

実生活に役立つ資料

蜂飼いの大臣

古文は、説話の代表的な作品から、短く簡潔で、興味深く読めるものを厳選して収録しました。

古事談

1 京極の大相国、蜂を飼ふこと、世もつて無益のことと称す。

世間の人は役にたたないことだと言っていた

2 さて五月のころ、鳥羽殿において蜂の巣にはかに落ちて、

突然落ちて

3 御前に多く飛び散りければ、

飛び散ったので

人々も刺されじとて逃げ騒ぎけるに、

4 相国、御前に枇杷のありけるを一房取りて、

枇杷があったのを

5 琴の爪にて皮をむきて、差し上げられたりければ、

(高く)差し上げられたところ

蜂、ある限り付きて散らざりければ、

5

◆古事談 源顕兼(二二〇～三三五)編

一二二二年～一二二五年の間に成立。宮廷や貴族、僧侶の説話を多く収録している。本文は『古典文庫 古事談上』による。

【源顕兼】一二二一年に出家し、諸書から材を集めて『古事談』を編纂した。有職故実に精通。

1 京極の大相国 藤原宗輔(二〇七～二六三)。大相国は太政大臣(太政官の最高責任者)の唐名。

2 鳥羽殿 現在の京都市伏見区にあった白河、鳥羽両上皇の離宮。

3 御前 鳥羽院の御前。「鳥羽院」は第七十四代鳥羽天皇(二〇三～二二五、在位二〇七～二三三)。退位後、一二二九年から二十七年間、強力

な院政を行った。

4 相国 京極の大相国のこと。

5 枇杷 植物のびわ。

6 琴の爪 琴を弾くときに指先にはめる道具。

7 院 鳥羽院のこと。

付きながら、供の人を召して、やはら賜ひけり。

(蜂が)付いたまま

静かに手渡された

7 院も、「賢く宗輔が居り申し候ひて。」と仰せられて、

都合よく宗輔がいてくれて

感ぜしめたまひけり。

(第九二 京極の大相国宗輔、蜂を飼ふこと)



びわの実

学びの道しるべ

- 一 前後のつながりを考えて、現代語に直そう。
- ① 人々も刺されじとて逃げ騒ぎけるに (6・4)
- ② 蜂、ある限り付きて散らざりければ (6・7)
- ③ 仰せられて、感ぜしめたまひけり。(7・2)
- 二 鳥羽殿のできごとを順に書き出し、院が宗輔のどこに感心したのか、簡潔にまとめよう。
- 三 この話の趣旨はどこにあるか、話し合おう。
- ④ 「世もつて無益のことと称す」(6・1) という一文が上げている効果を考える。

- ▼無益 (6・1)
- ▼やはら (7・1)
- ▼賜ふ (7・1)
- ▼賢し (7・2)
- ▼居り (7・2)
- ▼候ふ (7・2)
- ▼仰せらる (7・2)
- ▼感ず (7・3)

絵仏師の執心

近代文学の素材となった作品を収録。古典に親しみを感じるとともに、現代とのつながりについて考えながら読むことができるようになりました。

宇治拾遺物語

これも今は昔、^①絵仏師良秀^②といふありけり。家の隣より火出^③で来て、風おしおほひて責めければ、逃げ出でて大路へ出でにけり。人の描かする仏もおはしけり。^④また、衣着ぬ妻子^⑤なども、さながら内にありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるを事に^⑥して、向かひのつらに立てり。見ればすでにわが家に移りて、煙、炎くゆりけるまで、おほかた向かひのつらに立ちて眺めければ、「あさましきこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、騒がず。

風がおしかぶ

ほひて責めければ、逃げ出でて大路へ出でにけり。人の描かする仏もおはしけり。

人が(注文して)描かせた(仏画の)仏も

それもかまわず

自分の家に(火が)移って

くゆりけるまで、おほかた向かひのつらに立ちて眺めければ、「あさましきこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、騒がず。

「いかに。」と人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづきて、ときどき笑ひけり。「あはれ、しつるせうとくかな。年ごろは、わろく描

なぜ動じないのか

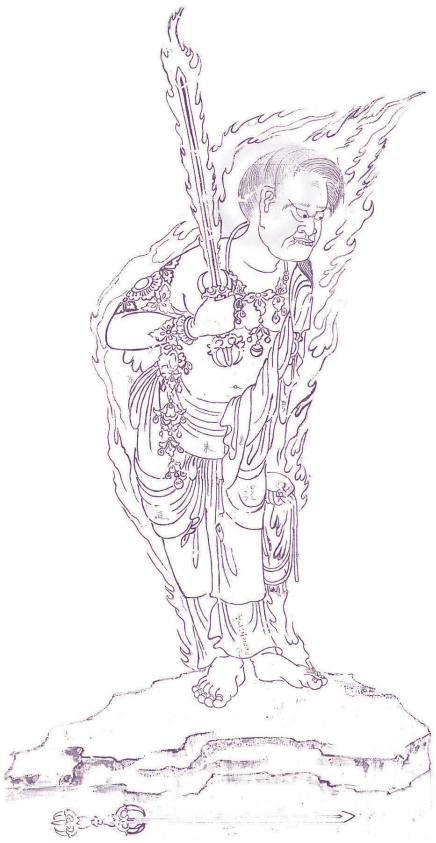
きけるものかな。」と言ふときに、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かく

これはまあどうしてこの

ては立ちたまへるぞ。あさましきことかな。物のつきたまへるか。」と言ひければ、「^⑤なんでふ物のつくべきぞ。年ごろ、不動尊の火炎をあしく描きけるなり。今見れば、^⑥かうこそ燃えけれと心得つるなり。これこそせうとくよ。この道を立てて世にあらむには、仏だによく描き奉らば、百千の家も出で来なむ。わたうたちこそ、^⑦させる能もおはせねば、物をも惜しみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。

そののちにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。

(第三八 絵仏師良秀、家の焼くるを見て喜ぶこと)



伝良秀筆の不動明王像の模写 (醍醐寺所蔵)

① 絵仏師 仏画を描くことを業とする絵師。

② 良秀 伝未詳。

③ 向かひのつら 向こう側。「つらは、並び、列。

④ しつるせうとくかな 「せうとくしつるかな」と同じ。もうけものをしたなあ。「せうとく」は一般に「所得」とするが、「抄徳」「証得」を当てる説もある。得をすることの意。

⑤ 物 ここでは、何かしらの霊を指す。

⑥ 不動尊 10ページ注⑤参照。

⑦ わたうたち おまえたち。「わたう」は「和党」。親しい者や目下の者を呼ぶ語。

⑧ させる能 これといった才能。

⑨ よぢり不動 火炎のよじれ方がみごとに描かれた不動尊の像。

- ▼ さながら (24 3)
- ▼ すでに (24 4)
- ▼ おほかた (24 5)
- ▼ 眺む (24 5)
- ▼ とぶらふ (24 6)
- ▼ わろし (24 8)
- ▼ めづ (25 7)

課題

- 一 家が火事になっているときに、良秀はどのような行動をとっていたか。その様子がわかる部分を抜き出そう。
 - 二 「あさましきこと」(24・5)、「あさましきことかな」(25・1)は、それぞれ、誰が、何について、どのように感じたことを述べているか。表にしてまとめよう。
 - 三 「この道を立てて世にあらむ」(25・3)とはどういうことか、端的に書こう。
 - 四 この話から、良秀はどのような気性の持ち主であることが読み取れるか、話し合おう。
- 🍷 良秀の言動を追っていく。特に「あはれ、しつるせうとくかな」(24・8)はこの場合、どのような気持ちの表れであるかを考える。

演習

- 一 傍線部の「の」を文法的な意味の違いによって二種類に分けよう。
 - ① 家の隣より火出で来て (24・1)
 - ② 人の描かする仏もおはしけり。 (24・2)
 - ③ 家の焼くるを見て (24・7)
 - ④ 物のつきたまへるか。 (25・1)
- 二 傍線部の係助詞「こそ」に注意して、次の各文を現代語に直そう。
 - ① 今見れば、かうこそ燃えけれど心得つるなり。 (25・3)
 - ② わたうたちこそ、させる能もおはせねば、物をも惜しみたまへ。 (25・4)
- 三 「仏だによく描き奉らば、百千の家も出で来なむ」(25・4)の「だに」のはたらきについて、「すら」「さへ」と比較しながらまとめよう。

内容を読み取るための具体的な学習課題と、そのおもしろさについて話し合う活動を設定し、理解を深められるようにしました。また、演習では、古典の言葉に着目して読むことができるようにしました。

古文のとびら 2

芥川龍之介と説話

近代の小説家芥川龍之介(一八九二年～一九二七年)の「地獄変」という小説は、『宇治拾遺物語』の「絵師良秀、家の焼くるを見て喜ぶこと」と、『古今著聞集』の「巨勢弘高の地獄変の屏風を画くこと並びに千体不動尊を画きて供養のこと」が素材になっています。

この小説の、「地獄変の屏風を描いた良秀という絵師」の話の部分は、次のように始まります。

良秀と申しましたら、あるいはただいまでもなお、あの男の事を覚えていらっしゃる方がございましょう。そのころ絵筆をとりましては、良秀の右に出るものは一人もありませんと申されたくらい、高名な絵師でございます。

「地獄変」では、この後、「絵師良秀」の狂気とも思える行動が描かれます。それは、わが娘の命さえ引き換えにするほどの芸術に対するすさまじい執着でした。

芥川は他にも「羅生門」「藪の中」など古典説話に基づく小説をいくつも書いていますが、説話を素材とするのは、次

のような意図があったようです。

今僕があるテーマをとらえてそれを小説に書くとする。そうしてそのテーマを芸術的に最も力強く表現するために、ある異常な事件が必要になるとする。その場合、その異常な事件なるものは、異常なだけそれだけ、今日この日本に起こったこととしては書きこなしにくい。もし強いて書けば、多くの場合不自然の感を読者に起こさせて、その結果せっかくのテーマまでも犬死にをさせることになってしまう。(中略) 僕の昔から材料を採った小説は大抵この必要に迫られて、不自然の障壁を避けるために舞台を昔に求めたのである。 (『澄江堂雑記』より)

古典説話にある不思議な(異常な)できごとやそのおもしろさが、芥川の創作を支えていたのかもしれない。

近代文学と古典作品とのつながりについて解説したコラム。前後の教材と関連づけて読むことで、より古典への関心が高められるようにしました。

地獄変

芥川龍之介

古典作品がもたらした近代文学の一部を掲載。読み比べることで、それぞれのおもしろさや表現の工夫に気づくことができるようにしました。

火はみるみるうちに、車蓋を包みました。ひさしについた紫のふさが、あおられたようにさつとなびくと、その下からもうもうと夜目にも白い煙が渦を巻いて、あるいはすだれ、あるいは袖、あるいは棟の金物が、一時に碎けて飛んだかと思うほど、火の粉が雨のように舞い上がる——そのすさまじさといったらすごいません。いや、それよりもめらめらと舌を吐いて袖格子にからみながら、半空までも立ち昇る烈々とした炎の色は、まるで日輪が地に落ちて、天火がほとばしったようだとも申しましようか。前に危うく叫ぼうとした私も、今は全く魂を消して、ただ茫然と口を開きながら、この恐ろしい光景を見守るより外はございませんでした。しかし親の良秀は——

良秀のその時の顔つきは、今でも私は忘れません。思わず知ら

しゃいます。そうしてその車の中には——ああ、私はその時、その車にどんな娘の姿を眺めたか、それを詳しく申し上げる勇氣は、とうていあるうとも思われません。あの煙にむせんであおむけた顔の白さ、炎を払って振り乱れた髪の毛の長さ、それからまた見るまに火と変わっていく、桜の唐衣の美しさ、——なんというむごたらしい景色でございましたらう。ことに夜風が一下ろして、煙が向こうへなびいた時、赤い上に金粉をまいたような、炎の中から浮き上がって、髪を口にかみながら、いましめの鎖も切れるばかり身もだえをしたありさまは、地獄の業苦を目の当たりへ写し出したかと疑われて、私はじめ強力の侍までおのずと身の毛がよだちました。

(中略)

その火の柱を前にして、凝り固まったように立っている良秀は、——なんという不思議なことでございます。あのさつきまで地獄の責苦に悩んでいたような良秀は、今はいいようのない輝きを、さながら恍惚とした法悦の輝きを、しわだらけな満面に浮かべながら、大殿様の御前も忘れたのか、両腕をしっかりと胸に組んで、たたずんでいるではございませんか。それがどうもあの男の目の中には、娘のもだえ死ぬありさまが映っていないようなので

ず車の方へ駆け寄ろうとしたあの男は、火が燃え上がると同時に、足を止めて、やはり手を差し伸ばしたまま、食い入るばかりの目つきをして、車を包む焰煙を吸いつけられたように眺めておりましたが、満身に浴びた火の光で、しわだらけな醜い顔は、ひげの先までもよく見えます。が、その大きく見開いた目の中といい、引き歪めた唇のあたりといい、あるいはまた絶えず引きつっている頬の肉の震えといい、良秀の心にもごも往來する恐れと悲しみと驚きとは、歴々と顔に描かれました。首をはねられる前の盗人でも、ないしは十王の庁へ引き出された、十逆五悪の罪人でも、ああまで苦しそうな顔をいたしますまい。これにはさすがにあの強力侍でさえ、思わず色を変えて、恐る恐る大殿様のお顔を仰ぎました。

が、大殿様は固く唇をおかみになりながら、時々気味悪くお笑いになって、目も離さずじつと車の方をお見つめになっていららう。が、限りなく心を悦ばせる——そういう景色に見えました。

しかも不思議なのは、なにもあの男が一人娘の断末魔をうれしそうに眺めていた、そればかりではございません。その時の良秀には、なぜか人間とは思われない、夢に見る獅子王の怒りに似た、怪しげな厳かさがございました。でございますから不意の火の手に驚いて、鳴き騒ぎながら飛び回る数の知れない夜鳥でさえ、気のせいか良秀の採烏帽子の周りへは、近づかなかつたようでございます。

学習の手引き

- 『宇治拾遺物語』の説話「絵仏師の執心」と芥川が描いた「地獄変」を読み比べ、どんなところが同じで、どんなところが違うかを話し合おう。
- 芥川は「絵仏師の執心」を小説化するにあたってどんな工夫をしたか、「二」で話し合った違いをもとに考えよう。

杞憂

イントロダクション3

漢文は、思想・漢詩・史伝から、現代とのつながりを感じられるものを厳選して収録しました。

列子

杞^①国、有^リ人、憂^ニ天、地崩墜^シ、身^ナ亡^レ、所^ニ寄^ス、廢^ス。
 寢^ニ食^ヲ者、又^リ有^レ憂^{フル}、彼^ノ之^ヲ所^ニ憂^{フル}者、因^リ往^キ、曉^シ之^ヲ。
 曰^ク、「天^ハ積^ミ氣^耳、亡^ニ処^{トシテ}、亡^ク氣^ハ若^シ屈^ム伸^ム呼^ブ吸^フ、終^ニ日^ハ在^リ天^中、行^ク止^ム。奈^ニ何^ソ憂^{ヘン}崩^ス墜^ス乎^{ヤト}。」其^ノ人^曰、「天^ハ果^{シテ}積^ム氣^{ナラバ}、日^ハ月^ハ星^ハ宿^ハ、不^レ当^{マシニ}墜^ル邪^{カト}。」曉^シ之^ヲ者^曰、「日^ハ月^ハ星^ハ宿^ハ、亦^{マタ}積^ム氣^中之^ニ有^ル光^耀者^{ナリ}、只^{タダ}。」

- 1 杞国 周時代の国名。現在の河南省杞県にあった。
- 2 曉 納得できるように言い聞かせる。
- 3 積氣 大気が積み重なったもの。
- 4 行止 行動する。
- 5 星宿 星座。
- 6 中傷 当たつてけがをする。
- 7 積塊 土が積み重なったもの。
- 8 四虚 四方の空間。
- 9 躐歩 踏みしめて歩く。
- 10 舍然 疑いが消えて、心が晴れ晴れとするさま。

使^シ墜^チ亦^ズ不^レ能^レ有^ル所^ニ中^ニ傷^ス其^ノ人^曰、「奈^ニ地^ハ壞^ル何^ト。」曉^シ者^曰、「地^ハ積^ム塊^耳、充^ム塞^シ、四^ニ虚^ニ、亡^ニ処^{トシテ}、亡^ク氣^ハ若^シ躐^ム步^シ、躐^ム踏^ム、終^ニ日^ハ在^リ地^上、行^ク止^ム。奈^ニ何^ソ憂^{ヘン}其^ノ壞^ル其^ノ人^舍然^{トシテ}、大^ニ喜^ブ。」曉^シ之^ヲ者、亦^{マタ}舍^ル然^{トシテ}、大^ニ喜^ブ。

5

***A**「耳」 **A**（である）だけだ。
 [限定]
 ***亡**「亡」 **B** **A**で**B**がないものはない。「二重否定」
 ***奈何**「乎」 どうして**A**（し）しようか。いや**A**（し）ない。「反語」
 ***当**「**A**」 当然**A**であろう。「再読文字」
 ***A**「邪」 **A**（なの）か。「疑問」
 ***使**「**A**」 **A**（する）としても。「假定」
 ***奈何**「何」 **A**をどうすればよいか。「疑問」

学びの道しるべ

一次の傍線部の読みと意味を調べよう。

- 1 天積氣耳。(100.3)
- 2 若屈伸呼吸。(100.3)

二次の文章を書き下し文にし、現代語訳しよう。

- 1 奈何憂崩墜乎。(100.4)
- 2 天果積氣、日月星宿、不当墜邪。(100.5)
- 3 只使墜、亦不能有所中傷。(100.6)
- 4 奈地壞何。(101.1)

三次の傍線部は何を指しているか、明らかにしよう。

- 1 因往曉之曰。(100.2)
- 2 其人曰。(100.4)

四 「又有憂彼之所憂者」(100.2)の傍線部①②について、それぞれ何を「憂」えているのか、まとめよう。

五 「其人」と「曉之者」の会話をまとめよう。

六 このたとえ話は何が言いたかったのか、話し合おう。

年齢を重ねるにつれて健康に関する話題が増え、周りから脅かされたりすると、健康診断を受けるのがおっくうになります。その日が近づくにつれ、「最近胃腸の調子が悪いのは、ひよっとしたら何か問題があるのではないか?」「痩せるためにもっと運動をしたほうがよいのかな?」などと、あれやこれやと悩んでしまいます。いざ診断の日、びくびくしながらいろいろな検査を受け終わり、その結果、「どこも異常がありませんよ。」と言われると、ホッと一息。家に帰ると、「杞憂ですんでよかったですね。」と言われる、「まだまだ柔じゃないよ。」などと強がりを使う、そんな光景を見たことがありますか。

ここに出てくる「杞憂」という言葉は、無用な心配、取り越し苦労、という意味で使われます。直接「無用な心配ですんでよかったですね」と言われるより、「杞憂ですんでよかったですね」と言われたほうがなんとなくおさまりがよいですね。ただ、「杞憂」は訓読みすると、「杞の憂い」となり、具体的に意味するイメージが思い浮かばないと思います。そのため、「杞憂」の語句の由来を知っておく必要があります。

いたのです。

「杞憂」の話の中で心配者を論じた者も、天は円天井（ドーム）の形をしており、それが大地を覆っていると解釈しています。現代の人のように、果てしなく広がる宇宙空間を昔の人は想像することができなかつたのです。

「杞憂」の話の中には、当時の宇宙観が含まれています。現在から見れば



取るに足らない話でも、当時の人々にとっては、いたって切実な問題だったわけです。「杞憂」が後世に使用され続けたのは、昔の人が宇宙を謎の世界としながらも、興味・関心を寄せ、杞の国の心配者の気持ちを理解できたからかもしれない。現在では、現実味のない逸話から生まれた成語として、かえって印象深い言葉として定着した感があります。

このように、言葉には一つ一つに歴史と文化的背景があり

由来は『列子』という書物に見えます。昔、杞の国に、天が崩れ落ちてきて身の置き所がなくなるのではないかと心配し、寝ることも食事をすることもままならない者がいました。この心配者を気にかけて者が現れ、心配者を諭します。天は大気の集まりであって崩れるようなことはなく、日や月はたとえ落ちたとしても傷つけるようなことはなく、大地は土が重なったもので壊れるようなことはないことを説明すると、心配者は安心して喜びました。

この逸話がもとになり、「杞憂」という言葉が生まれたのです。天が崩れ落ちるなんて、そんなばかげた話があるか、と本当に「杞憂」の由来を示す話なのか疑ってしまいます。人がロケットで月まで飛んでいく現代において、この話はあり得ない話といえるでしょう。しかし、昔の人にとっては、天の存在は大きな問題だったと思います。なぜなら、宇宙に対する認識が現在と全く異なっていたからです。

では、昔の人は、宇宙をどのようなものだと考えていたのでしょうか。古来、中国では宇宙に対してさまざまな解釈がありました。宇宙に果てがあると考えます。そして、それらをたどっていくと、漢文作品に行き着くことが多々あります。つまり、漢文作品を読むことが、言葉の歴史と文化的背景を知ることにつながるのです。故事成語はその最たる例です。古来、日本人は漢文作品に親しむことによって、言葉に対する意識・感覚を磨いてきました。言葉に対する意識・感覚が高まれば、日常の言語生活をより豊かに味わうことができるでしょう。

●日頃よく使う故事成語を取りあげ、その由来を調べよう。

●取りあげた故事成語が、どのような場面で用いられているか、話し合おう。

三国志

現在もさまざまな形で親しまれている「三国志」から、特に有名な故事を取り上げました。話のおもしろさを味わうとともに、日本語の中に受け継がれている漢文の言葉を知り、古典への興味を広げられるようにしました。

三たび往きて、乃ち見る



劉備像（唐代「歴代帝王図」）

時先主屯新野。徐庶見先主。先主器之。謂先主曰、「諸葛孔明者、臥竜也。將軍豈願見之乎。」先主曰、「君与俱来。」庶曰、「此人可就見、不可屈致也。將軍宜枉駕顧人。」

之。

由是先主遂詣亮。凡三往、乃見。因屏人曰、「漢室傾頽、姦臣窃命、主上蒙塵。孤不度德量力、欲信大義於天下。而智術淺短、遂用猖獗、至于今日。然志猶未已。君謂計將安出。」

亮答曰、「自董卓已来、豪傑並起、跨州連郡者、不可勝数。曹操比於袁紹、則名微而衆寡、然操遂能克紹、以弱為強者、非惟天時、抑亦人謀也。」

◆三国志 史書。陳寿（二三～元七）編。六十五卷。魏・呉・蜀の三国の歴史を国別にまとめている。
【陳寿】西晋時代の歴史家。初め蜀に仕えたが、滅亡後、西晋に仕えて『三国志』を著した。

- 1 先主 三国の蜀の建国者である劉備（二六～三三）を指す。当時、漢の將軍であった。
- 2 新野 現在の河南省南陽市新野県。
- 3 徐庶 生没年未詳。三国時代の策士。字は元直。
- 4 器之 この人の才能を高く評価する。
- 5 諸葛孔明 一八一年～二三四年。三国の蜀の政治家。名は亮。孔明は字。
- 6 就 近づく。
- 7 屈致 無理に招き寄せる。
- 8 枉駕 乗り物をわざわざ立ち寄らせる。
- 9 屏人 人ばらいをする。
- 10 傾頽 落ちぶれ、滅亡する。
- 11 主上 天子。漢の獻帝をいう。
- 12 蒙塵 都から逃げ出す。
- 13 孤 私。王侯の謙称。
- 14 猖獗 失敗する。
- 15 董卓 ？～一九二年。後漢末の群雄の一人。字は仲穎。獻帝を擁立して専横をきわめた。
- 16 不可勝数 全てを数えあげることができない。
- 17 曹操 一五五年～二一〇年。三国の魏の將軍。字は孟徳。魏の武帝と諡された。
- 18 袁紹 ？～二〇二年。後漢末の群雄の一人。字は本初。
- 19 抑 さらに。

* 豈（A）（乎）（A）であってもらいたい。（願望）
* 非（A）（抑）亦（B）也 たただけではなく、Bである。

本書で学ぶ古文の基本単語

◎ 脚注欄に掲げた、教科書の本文理解のうえでかぎとなる単語に、簡単な解説を付した。
◎ 助詞・助動詞、また補助用言の類は省いた。

◎ 品詞に関する略号は以下のとおりである。
名 名詞 代名 代名詞
形 形容詞 形動 形容動詞
連体 連体詞 接続 接続詞
動 動詞
副 副詞
感 感動詞

あ行

あかし「形ク①明かし」明るい。②「赤し」赤い。
あさまし「形シク①ただ驚くばかりだ。②もつてのほかだ。③(あきれて)情けない。興ざめた。④みすばらしい。⑤あさはかだ。
あさむ「動四①意外な事実で驚く。②「浅む」あなどる。ばかにする。
あし「悪し」「形シク①悪い。②不快だ。不都合だ。③(技術などが)まずい。下手だ。④(容姿・身分などが)卑しい。みすばらしい。⑤(天候などが)荒れ模様だ。⑥(性格などが)荒々しい。
あした「朝」名①朝。②明くる朝。
あながちなり「強ちなり」「形動①強引なことだ。②ひたむきだ。いちずだ。③あまりの事だ。
あはれa「感動したり驚いたりするときに発する言葉。ああ。b」名①喜び・悲しみ・苦しみなどの感情。②しみじみとした感情を呼び起こすような風情。情趣。

あはれがる「動四」「あはれ」と思う。「あはれ」と思う気持ちを表面に表す。
あひぐす「相貝す」「動サ変①一緒に伴う。②夫婦になる。
あへて「敢へて」副①強いて。思い切つて。②(下に打ち消しを伴って)少しも決して。
あへなし「敢へなし」形ク①手の施しようがない様子。がっかりした様子。②あつけない。
あまた「数多」副①数多く。②非常に。
あやし「形シクa」怪し①霊妙だ。神秘的だ。②珍しい。③不審だ。④異常だ。
b「賤し」①卑しい。身分が低い。②見苦しい。粗末だ。
あやしむ「動四」怪しむ①不思議に思う。怪しむ。
あやふげなり「形動」「危ふげなり」危なく見える様子。危なそうだ。
あらがふ「動四①争う。②反論する。
あらはす「動四」表す・現す・顕す①「隠れていたものを」はつきり見せる。②打ち明ける。
あらはなり「露はなり」「形動①隠れると

ころがなくまる見えである。②はつきりしている。③公然としている。
あらはる「現る・顕る」動下二①隠れていたものが表面に出る。②「隠していたことが」人に知られる。
ありがたし「有り難し」形ク①めったにない。珍しい。②実現が困難である。③おそれ多い。かたじけない。
ありく「歩く」動四①動き回る。②歩く。外出する。
あんのごとく「案のごとく」連語「思ったとおり。
いいうなり「優なり」形動①上品で優雅な様子。②風流な様子。
いかが「副①疑問を表す。どのように。②反語を表す。どうして。③ためらいや非難の気持ちを表す。どうだろうか。どうしたものか。
いかで「副①疑問を表す。どういうわけ。どうやって。②反語を表す。どうして。③願望の気持ちを表す。どうかして。
いかなる「形容動詞「いかなり」の連体形」どのような。どういふ。

いかに「副①疑問を表す。どのように。②疑問を表す。どうして。なぜ。③程度の甚だしいさまを表す。どんなにか(…だらう)。さぞ(…だらう)。
いざたまへ「連語」さあいらっしゃい。さあまいるましよう。軽い敬意をこめて勧誘する意を示す。
いたく「副①甚だしく。ひどく。②打ち消しを伴って)たいして。それほどには。
いづち「代名」どの方向。どちら。
いづく「代名」不定称。どこ。どちら。
いと「副①非常に。たいそう。②全く。
いとほし「厭はし」形シク「嫌いな様子。いやだ。
いとふ「厭ふ」動四①いやがる。嫌う。②避けて身を守る。③いたわる。
いとほし「形シク①気の毒だ。かわいそう。②いじらしい。かわい。
いとほしがる「動四」気の毒がる。かわいそうに思う。
いぬ「往ぬ・去ぬ」動サ変「行ってしまふ。去る。
いふかひなし「言ふかひなし」連語①

言ってみてもしかたがない。②問題にならない。つまらない。③ふがいない。
います「動四または動サ変①「あり」の尊敬語。いらっしゃる。②「行く」「来」の尊敬語。いらつしやる。おいでになる。
いみじ「形シク①甚だしい。なみなみでない。②優れている。すばらしい。③たいへんうれしい。④たいへんだ。ひどい。かわいそうだ。
いらふ「答ふ」動下二答える。
うづむ「埋む」動四埋める。
うるはし「麗し美し」形シク①立派で美しい。②よく整っていて端整である。③人柄が律儀で誠実である。④改まっている。⑤仲むつまじい。⑥正式である。本物である。
うるふ「潤ふ」a「動四」うるおう。湿っぽくなる。b「動下二」うるおす。
えもいはず「連語」程度が甚だしくて(言葉で言い表せない。
おきつ「掬つ」動下二①予定する。計画する。②処置する。③命令する。
おくす「臆す」動サ変「気おくれする。
おとなし「大人し」形シク①おとなびている。②年輩だ。③穏やかだ。
おどろく「驚く」動四①びっくりする。はっとする。②目を覚ます。
おのが「連語」自分の。
おのづから「副ひとり」自然に。
おのれ「己」代名①自分自身。②自称。わたし。改まった気持ちのときに用いることが多い。③対称。おまえ。目下に対して、また、相手ののしるときに用いる。

おはします「動四①「あり」の尊敬語。いらつしやる。②「行く」「来」の尊敬語。いらつしやる。おいでになる。
おはす「動サ変①「あり」の尊敬語。いらつしやる。②「行く」「来」の尊敬語。いらつしやる。おいでになる。
おびたし「形シク①程度がものすごくい。②数量がものすごく多い。
おほかた「副①一般に。おしなべて。②ひととおり。③(打ち消しを伴って)全く。④そもそも。だいたい。
おほきなり「大きなり」形動①大きい。②程度が甚だしい。
おほしめす「思し召す」動四「思ふ」の尊敬語。お思いになる。お考えになる。
おほす「仰す」動下二①命じる。②「言ふ」の尊敬語。おっしゃる。
おほせらる「仰せらる」連語①お命じになる。②「言ふ」の尊敬語。おっしゃる。
おぼろなり「形動」ぼんやりとかすんでいる様子。
おれ「代名①自称。わたし。②対称。おのれ。相手をののしつて言うときに用いる。
おろかなり「疎かなり愚かなり」形動①おろそかだ。いかげんだ。②表現が足りたりでつまらない。③未熟だ。下手だ。④賢くない。
か行
かうぶる「被る」動四「いただく。受ける。承る。
かがる「連体」こんな。このような。かぎりなし「限りなし」形ク①果てしな

い。限界がない。②最高だ。
かく「副」このように。こういうふうにか。
かくてa「副」こうして。b「接続」それから。こうして。
かのごとく「連語」このようにして。
かこし「形クa」畏し・恐し①恐ろしい。②おそれ多い。b「賢し」①賢明である。②技能に優れている。③すばらしい。④運がよい。⑤都合だ。⑥甚だしい。
かたし「形クa」堅し・固し①堅固でしっかりしている。②厳しい。b「難し」むずかしい。容易でない。
かたち「形容詞」名①形状。姿。かっこう。②容貌。容姿。
かたらふ「語らふ」動四①語り合う。②親しく交際する。③男女が言い交わす。
④説得する。自分の仲間に引き入れる。⑤相談する。頼み込む。
かなし「形シクa」愛し①身にしみていとおい。②心にしみておもしろい。b「哀し悲し」①身にしみてあわれだ。②悔しい。残念だ。
かまふ「構ふ」a「動下二①準備する。計画する。②組み立てる。設置する。③身構える。注意してふるまう。b「動四」関わる。関係する。
かんず「感ず」動サ変①感動する。②感心して褒める。③ある行為に対する神仏の報いが現れる。
きこしめす「聞こし召す」動四①「聞く」の尊敬語。お聞きになる。②「食ふ」「飲む」の尊敬語。召し上がる。③「治む」「行ふ」の尊敬語。お治めになる。
きこゆ「聞こゆ」動下二a「聞く」こえる。

きらきら「形シク①きらきらと輝いている様子。②輝くばかりに美しい。③威厳がある。立派である。
ぐす「貝す」動サ変①備わる。②備える。③連れ立つ。従う。④伴う。連れて行く。
けしき「気色」名①様子。顔つき。表情。態度。そぶり。②機嫌。好意。③意向。考え。④兆候。
げに「副①本当に。確かに。②賛意を表す語。なるほど。
けはひ「気配」名①なんとなく感じられる様子。雰囲気。風情。②「確認できないものから伝わってくる(音・香り、においなど。③感触。④(外面の立ち居ふるまいから感じ取られる)人柄・品格。⑤亡き人の面影。名残。
こごち「心地」名①気持ち。気分。②心。③様子。感じ。④気分がすくれないこと。病気。
こころう「心得」動下二①理解する。悟る。②心の準備をする。③深くわきまえる。④承知する。引き受ける。
こころにくし「心憎し」形ク①心が引かれる。おこゆかしい。②興味を引かれる。③恐ろしい。④怪しい。
こころばへ「心ばへ」名①気だて。性質。②意味。意向。事情。③趣。風情。
ことやう「異様」名「普通でないこと。変わっていること。
ことわりなり「形動」もつともだ。道理に

覚えておきたい故事成語

臥薪嘗胆

屈辱を晴らして目的を達するために、苦勞を重ねること。
夫差讎を復せんと志し、朝夕薪中に臥し、出入するに人をして呼ばしめて曰はく、「夫差、而越人の而の父を殺せしを忘れたるか。」と。勾踐國に反り、胆を坐臥に懸け、即ち胆を仰ぎ之を嘗めて曰はく、「女会稽の恥を忘れたるか。」と。

夫差は復讐を決意し、朝夕薪の上で寝起きし、部屋に出入りする人にこう言わせた。「夫差よ、おまえは越の人間がおまえの父を殺したのを忘れただけか。」と。勾踐は国に帰ると、苦い肝を寝起きする部屋につき、寝起きするたびに肝を仰いでなめて言った。「おまえは会稽で受けた恥を忘れただけか。」と。

〔十八史略〕より



四面楚歌

周りが敵や反対者ばかりで、味方がいないこと。

項王の軍、垓下に壁す。兵少なく食尽く。漢軍及び諸侯の兵、之を囲むこと数重なり。夜、漢軍の四面皆楚歌するを聞き、項王乃ち大いに驚きて曰はく、「漢、皆已に楚を得たるか。是れ何ぞ楚人の多きや。」と。

楚の王項羽の軍は垓下に城壁を築いて立て籠もった。兵力は少なく食糧も尽き果てた。漢の軍や諸侯の軍が、この城壁を幾層にも包圍した。夜になり、漢の軍が四方で皆楚の國の歌を歌っているの聞き、項羽は大いに驚いて言った。「漢はもう楚の國を全部占領したのか。なんと楚の人が多いことか。」

〔史記〕より

完璧

欠点や不足が一つもなく、非常に優れていること。

臣願はくは、璧を奉じて往きて使ひせん。城趙に入らば、璧は秦に留めん。城入らずんば、臣請ふ、璧を完うして趙に帰らん。

私に璧を奉じて行かせてください。都市が趙のものになったら、璧は秦に置いていきましよう。都市が手に入らなければ、私は璧を無傷のまま持ち帰りましよう。

〔史記〕より

杜撰

手を抜いたところが多く、いかげんな様子。

杜撰詩を為るに、多く律に合はず。故に事の格に合はざる者を言ひて杜撰と為す。

杜撰は詩を作ったが、詩の規則に合わないものが多かった。そこで、物事の規則に合わないものを杜撰（杜が作ったもの）と言うようになった。

〔野客叢書〕より

推敲

文章や詩を書くときに、最適な字句や表現を考えて練り上げること。

鳥、拳に赴きて京に至る。驢に騎りて詩を賦し、「僧は推す月下の門」の句を得たり。推を改めて敲と作さんと欲す。手を引きて推敲の勢ひを作すも、未だ決せず。覚えずして大尹韓愈に衝たる。乃ち具さに言ふ。愈曰はく、「敲の字佳し」と。遂に轡を並べて詩を論すること、之を久しくす。

賈島は科挙の試験を受けるため都へやってきた。驢馬に乗って詩を作り、「僧は推す月下の門」という句を思いついた。「推す」を「敲く」に改めようかと思

い、手で押す動作や叩く動作を試してみたが、まだ決まらなかった。そのうち、うっかり都の長官韓愈の行列に衝突してしまった。そこで賈島は韓愈に事情を詳しく話した。韓愈は「敲く」の字のほうがよい。」と言った。そのまま二人は馬を並べて長い時間詩を論じ合いながら行った。

〔唐詩紀事〕より



呉越同舟

仲の悪い者どうしが一緒にいたり、一緒に行動したりすること。

夫れ呉人と越人と相悪むも、其の舟を同じくして洩りて風に遇ふに当たれば、其の相救ふや左右の手の如し。

そもそも呉の國の人と越の國の人とは互いに憎み合う間柄だが、同じ舟に乗り合せて強風に遭ったなら、右手と左手の關係のように互いに助け合うものだ。

〔孫子〕より

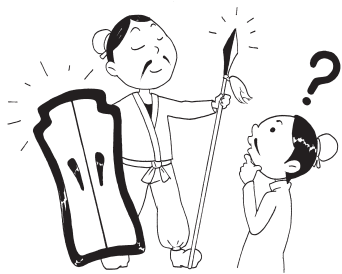
矛盾

つじつまが合わないこと。

楚人に楯と矛とを鬻ぐ者有り。之を嘗めて曰はく、「吾が楯の堅きこと、能く陷すも莫し」と。又其の矛を嘗めて曰はく、「吾が矛の利きこと、物に於て陷ざる無し」と。或ひと曰はく、「子の矛を以て、子の楯を陷さば何如」と。其の人応ふること能はざるなり。

楚の人に、楯と矛とを売る者がいた。その楯を自慢して、「私の楯は堅く、どんなものでも貫き通すことはできません。」と言った。次に、矛を自慢して、「私の矛は鋭く、どんなものでも貫き通すことができます。」と言った。するとある人が、「あなたの矛で、あなたの楯を貫いたらどうなるのか。」とたずねた。その人は答えることができなかった。

〔韓非子〕より



他山の石

他人のよくない言行も、自分を磨くための助けになるということ。

他山の石、以て玉を攻むべし。

よその山から出た粗悪な石でも、砥石として使えば自分の宝玉を磨いて美しくするのに役立つことができる。

〔詩経〕より

断腸

こらえきれないほど、悲しみ苦しむこと。

桓公、蜀に入り、三峡の中に至る。部伍の中に猿子を得る者有り。其の母岸に縋りて哀号し、行くこと百余里にして去らず。遂に跳りて船上り、至れば便即ち絶ゆ。破りて其の腹の中を視れば、腸皆寸寸に断えたり。公、之を聞きて怒り、命じて其の人を黜けしむ。

桓公が蜀に攻め入り、三峡までやってきた。部隊の中に猿子をつかまえた者がいた。その母猿は岸を伝いながら泣き叫び、百里余り進んでも立ち去らなかつた。とうとう船に跳び上がり、子猿のもとに着くとすぐに息絶えた。母猿の腹を裂いて中を見ると、腸がずたずたにちぎれていた。桓公はこの話を聞いて怒り、その者を罷免するよう命じた。

〔世説新語〕より

破天荒

今まで誰もなしえなかつたことをすること。

唐の荊州は衣冠數沢し、毎歲挙人を解送すれども、多く名を成さず。号して曰はく、「天荒解」と。劉蛻舎人、荊の解を以て及第す。号して「破天荒」と為す。

唐の荊州は官吏出身者が多く、毎年解試という地方試験を行って合格した者を中央の進士の試験に臨ませていたが、合格者がいなかった。そのため荊州からの受験者は「天荒解（未開の地の受験者）」と言われた。やがて舎人の劉蛻が荊州から送り出されて初めて合格した。そこで劉蛻は「破天荒（天荒を破った）」と呼ばれた。

〔北夢瑣言〕より

次の言葉も、中国の古い書物に由来をもつ故事成語です。辞書等で意味や由来を調べてみましょう。

- 温故知新 ● 大器晚成 ● 五十步百步 ● 馬耳東風 ● 蛇足 ● 守株
- 漁夫の利 ● 背水の陣 ● 螢雪の功 ● 羊頭狗肉 ● 助長 ● 登龍門



指導書・教材

指導に役立つ資料と学習を助ける教材類

指導書

本体価格一五、〇〇〇円（税別）

指導資料

教材研究に役立つ資料や、実際の授業や評価で活用できる情報を豊富に掲載しています。

発問例集

指導資料に掲載した発問をまとめたデータを収録しています。

ワークシート

• 学びの道しるべシート • 構成・内容理解シート • 古文品詞分解シート

基本テスト

短時間で基礎を養う小テスト。現代文編では漢字や語句、古文では文法、漢文では句法などについて出題します。

評価問題

定期考査などに使える問題を、各教材、難易度別に複数収録しています。

補充教材

教科書の教材に関連する資料や、発展的に読むことができる作品などを収録しています。



教科書原文

教科書教材文の原文データを収録しています。

教師用教科書

教科書の紙面に、文章構造や要約、口語訳や文法の解説、「学習の手引き」の解答例など、授業に役立つ情報を青字で刷り込んだものです。

指導書別売品

教師用教科書

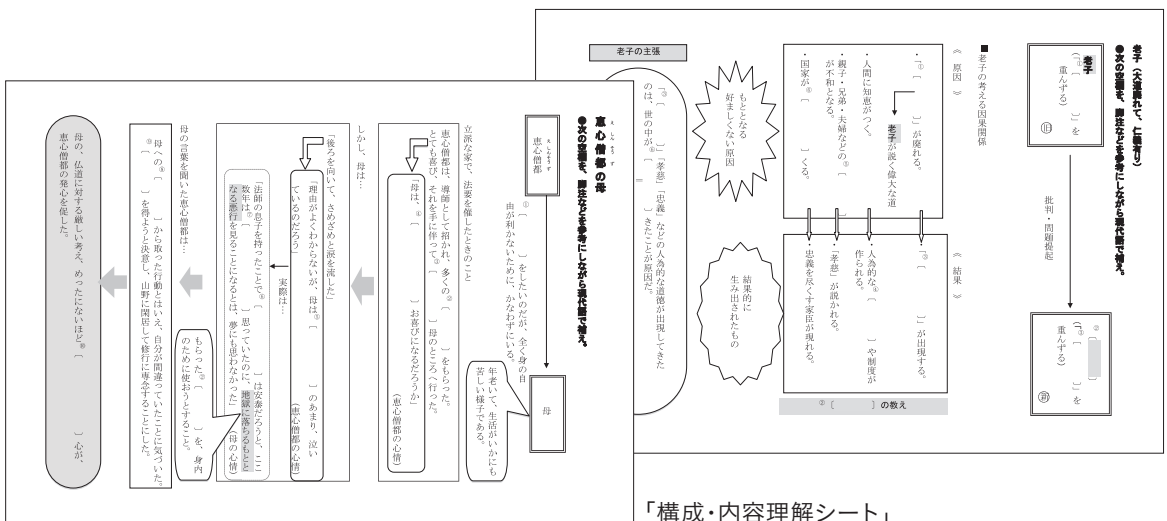
本体価格四、五〇〇円（税別）

指導書の「教師用教科書」と同じものです。

指導資料PDF版

本体価格四、五〇〇円（税別）

指導書の「指導資料」の紙面をPDFデータにしたものです。



「構成・内容理解シート」



デジタル教科書

指導者用デジタルテキスト

はじめに

●教科書の内容を最大限に活用すること

デジタルテキストでは、教科書本文の拡大提示、付録や図版資料のインデックスおよびその拡大提示など、教科書の内容を提示用の素材として、最大限に活用することをコンセプトに製作いたしました。

●CoNETSビューア

平成29年度版からは教科書会社14社が参画して開発した共通プラットフォームCoNETSビューアでのご利用になります。

▶CoNETSについて (<http://www.conets.jp/>)

CoNETSビューアでは、先生ごとにユーザーを登録することで、書き込み情報や履歴などをそれぞれに保有することができます。



※画面サンプルはすべて「精選国語総合」となっております。

指導者用デジタルテキスト 〈校内フリーライセンス〉※1			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版	教科書利用期間一括※2	40,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード
Windows版 単年度ライセンス	ご購入年度末まで	18,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード
学習者用デジタルテキスト 〈1端末1ライセンス〉※3,4			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版 / iOS版	教科書利用期間一括※2	1,500円+税	ダウンロード

※1 校内のすべての端末にインストール可能です。なお、価格は1学年の価格です。

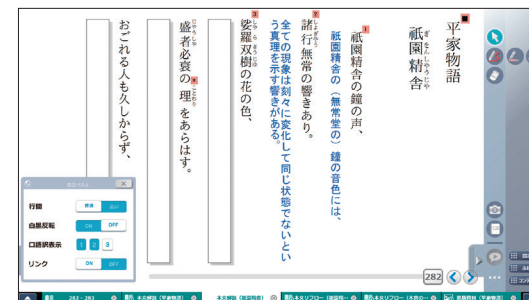
※2 収録されている検定教科書の使用期間中はご利用いただけます。

※3 教師用デジタルテキスト購入校のみ購入できます。

※4 インストールする端末(1端末)ごとにライセンス料金をお支払いいただけます。

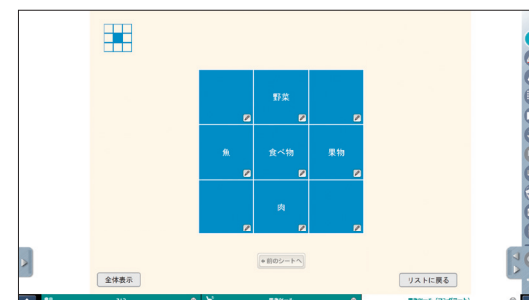
指導者用 豊富なコンテンツで授業をサポート

■ 本文解説



本文の口語訳のon/offができます。マスクをはがしながら表示することもできます。

■ 思考ツール



デジタルテキストオリジナルのコンテンツも多数収録しています。

■ コンテンツ一覧



「フラッシュカード」「図版資料」「人物相関図」など、さまざまなコンテンツを収録。

■ オンライン辞書



授業での提示に特化した指導者用の辞書サイトをデジタルテキストのリンクからご利用いただけます。

●動作環境 指導者用 (2020年1月現在)

Windows版	
OS	Windows 8.1 / Windows 10 (32bit / 64bit 対応)※1
ブラウザ	Internet Explorer 11
CPU	Intel Core i3以上推奨
メモリ	4GB以上
空き容量	4GB以上(ビューア1GB+教材3GB)
その他	.NET Framework 4.5.1以降

※ Microsoft, Internet Explorerおよび Windowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※1 Windows RTには対応していません。

動作環境や導入にあたっての条件等は、CoNETSのWebサイトにて最新の情報をご確認ください。 <http://www.conets.jp/>

学習者用デジタルテキスト についての特徴や動作環境など、

その他詳細な情報は三省堂教科書・教材サイトをご覧ください。

●体験版DVD-ROMのお申し込みはeメールにてご連絡ください。
eメールアドレス: info-tbdt@sanseido-publ.co.jp

★三省堂教科書・教材サイト
<http://tb.sanseido.co.jp>

